

鬼と考える「多様性」と「人権」

～歴史や社会を、鬼の視点で見てみたら？～



はじめに～歴史や社会を、鬼の視点で見てもいい？～

皆さんの知ってる鬼はどんな鬼ですか？ 昔話の退治される鬼、絵本で読んだ鬼、鬼ごっこ、節分に豆で追い払われる鬼、地獄で罪人を責める鬼、風神雷神、鬼瓦、映画や漫画の鬼…。魅力・魁・魂など鬼のつく漢字、鬼に関連したことわざも多いですね。現代の私たちの生活の中にも、鬼はさまざまな姿で存在しています。恐ろしい鬼、強い鬼、ユーモラスでかわいい鬼もいます。

人に危害を与える鬼や恐ろしい姿形の鬼を、恐いと思う気持はあたりまえかもしれません。しかし、不安や恐れは、時に他者への偏見や排除、差別につながることもあります。また悪気がなくても、知らずに人を傷つけ、差別していることがあります。多くの人は、自分の基準で善悪を判断したり、相手を決めつけたりするからでしょう。「私とあなたはちがうのだね」「私に大切なものがあるように、その人にとっては、これが大切なことなのだな」と受けとめることができれば、人との関係性は、ずいぶん変わるのではないのでしょうか。

その人が持つイメージや言葉、選択にはその人の意識や経験が反映されます。どのような経験をするか、どのように情報を得て活用できるかということは、その人の意識や価値観、人生観、人との関係の作り方（姿勢）に、大きく影響することでしょう。特に子どもたちには、多様な存在や「ちがいが」を肯定的に知る、異なる意見を聞く、視点を変えて考えてみるという経験を、たくさんしてほしいと思います。経験は、その後の気づきや学び、成長の土台となることでしょう。

歴史は勝者の歴史、物語は人が作るもの、自分が知っていること・見えているものがすべてではないということですね。日常や「あたりまえ」からは見えないもの、「多数者」の視点では気づかないことがたくさんあると思います。

では、敗者の歴史、追われる者の立場や歴史に残らない物語、マイノリティの視点から何が見えるのでしょうか。歴史や文化・社会を鬼の視点で見てもいいなら、一体何が見えてくるのか、わくわくしませんか？

この冊子は、鬼についての学術的な歴史本ではありません。正解や方法を示すマニュアル本でもありません。読んでくださった人は、よくわからなくてモヤモヤするかもしれません。ぜひ、モヤモヤしながら「わからなさ」とつきあったり、面白さを感じたり、多様な存在に思いを馳せていただければと思います。

「鬼」をきっかけとして、人権や差別とは何か、多様性を尊重すること、人権を尊重することについて、考えてみる、誰かと話してみる、何か行動してみることの、ささやかでもきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、鬼に関わる研究・文化の継承にご尽力されているすべての方に、心より敬意を表します。また、冊子制作にあたり、暖かいご助言と励ましをくださり、掲載を快く承諾していただきました関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

2025年9月

奈良・天邪鬼の会



●鬼の歴史から学ぶこと

- ・見えるものがすべてではない
- ・「あたりまえ」「正しい」は変わる
- ・社会は多様な人々・文化で構成されている
- ・情報・リスク・ストレスとのつきあい方
- ・「白か黒」「ゼロか百」ではない生活視点

情報や SNS とのつきあい方

- ・混同や対立せず、冷静に問題を整理しよう
- ・感情ではなく、科学的・客観的に見よう
- ・うのみにせず、事実かどうか確認しよう
- ・拡散する前にひと呼吸（→差別に加担しない）
- ・「わからない」「不安」とつきあう
→理解できなくても尊重できる

●鬼からのメッセージ

鬼＝相手の言い分も聞こう！
（まずは対話を）

噂に惑わされないで！
自分で考え判断しよう

決めつけないで！
別の視点で考えてみよう

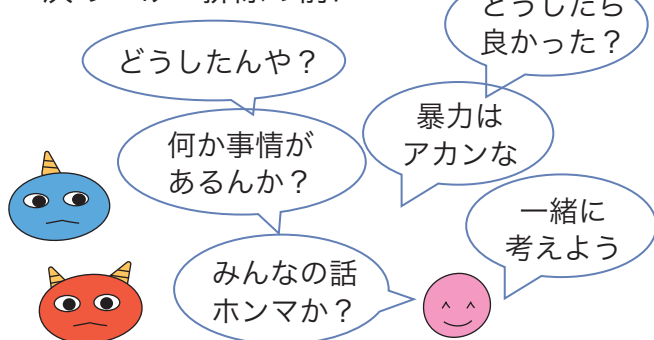
わからなくていい、
でも排除しないで！

他者や「ちがい」に敬意を

多様性を尊重しよう！
対等な姿勢でね



決めつけ・排除の前に



どんな社会をめざす？



「あたりまえ」「ふつう」
はみんなちがう

誰かが生きづらい
「あたりまえ」「ふつう」
「しくみ」を変えよう

「マジョリティ／マイノリティ」の境界や「らしさ」「ふつう」「あたりまえ」の基準は、時代や地域、文化や集団によって異なります。「異なること＝ちがい」が、「攻撃しても良い」対象、侮辱や否定の材料となってしまう背景には、偏見や社会の構造的な問題があると思います。否定的な感情が培われてきた固定観念・経験・社会構造をふりかえることで見えてくるものがあるのではないのでしょうか。

多様性を尊重するということは、感情や理解に関係なく、自分とはちがっていても「その人が大切にしている価値観・文化を尊重する（ただし差別する自由はない）」「他者には敬意を持って接する」ということではないのでしょうか。自分や人を肯定的に受けとめるためには、ちがいをちがいのまま尊重する姿勢を学ぶこと、さまざまな経験や試行錯誤の機会が大切だと思います。

私たちはすでに、多様な存在・文化の中で生きています。誰かの生きづらさにつながっている固定観念やしくみが変わっていくことが、生まれてきたすべての命が大切に育てられ、幸せに生きられる社会につながれたいと思います。

①日本書紀に見える鬼の原型と構図

奈良時代に成立した日本書紀には、現代に通じるさまざまな鬼の原型が伺えます。

神話の時代に、黄泉の国（死者の国）から追ってきた「雷」=鬼を桃で撃退する話は、桃太郎を彷彿とさせる興味深い話です。

また、神々の時代にも、ヤマトタケル東征の場面でも、服従しない対象を「邪神」「邪鬼」「神鬼（鬼神?）」「姦鬼」と呼んで、征伐しています。

舒明天皇の時代には外国人と思われる「肅慎人（みしはせのひと）」を「おに」と呼んで避けています。齊明天皇の葬儀では山の上から大笠を着た鬼が見ていたという不思議な現象が記されています。

よくわからない存在や都合の悪い存在が「鬼」とされたのかもしれませんがね。

巻第 1 神代上一書 9 〈イザナキと黄泉の国〉

因採其實

イカツチ

以擲雷者

雷等皆退走矣

此用桃避鬼之縁也

その実を採って雷に投げつけると、雷どもは皆逃げて行ってしまった。これが、桃をもって鬼を防ぐ由縁である。

巻第 1 神代下 〈地上の平定〉

彼地多有螢火光神

アシキカミ

及蠅聲邪神

吾欲令撥平

アシキカミ(モノ)

葦原中国之邪鬼

その地には数多く、螢火のように輝く神や騒がしい邪神がいる。私は、葦原中津国の邪神や鬼を討伐させようと思う。

巻第 1 神代下 9 段 〈二神の報告〉

マツロハヌカンタチ

誅諸不順神鬼等

アシキカミ

遂誅邪神及草木石類

皆已平了

従わないもろもろの邪神や鬼を滅し（略）遂に邪神及び草木石の類まですべてを滅ぼし、平定し終わりました。

巻第 7 景行天皇 40 年 〈ヤマトタケル東征〉

亦山有邪神

カタマシヲニ

郊有姦鬼

即巧言而調暴神

カタマシキヲニ

振武以攘姦鬼

また山には邪神がおり、野には邪悪な鬼がいる。言葉を巧みに荒ぶる神を鎮め、武力を振るって邪悪な鬼を追い払え。

巻第 19 欽明天皇 5 年 〈肅慎人〉

彼嶋之人言非人也

オニ

亦言鬼魅不敢近之

有人占云是邑人

オニ

必為魅鬼所迷惑

その島の人には人ではないと言っている。また鬼であると言って敢えて近づかなかった。ある人が占って言うには、この村の人は必ず鬼に惑わされるところとなる。

巻第 26 齊明天皇 7 年 〈齊明天皇の葬儀〉

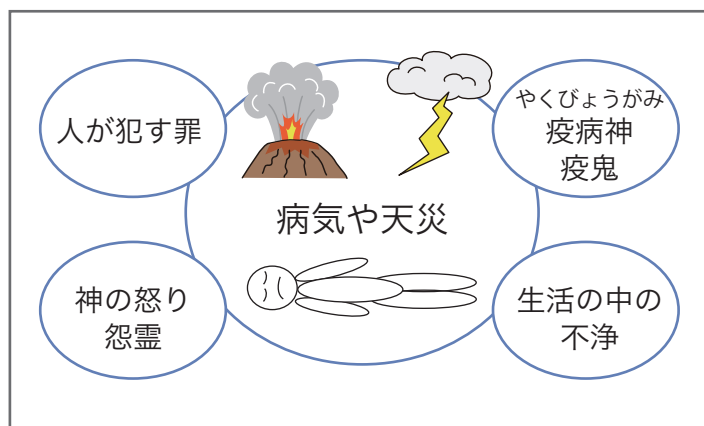
是夕於朝倉山上有鬼

着大笠臨視喪儀

この夕、朝倉山の上には鬼がいて、大笠を着て喪儀をのぞき見ていた。



②節分と追儼（ついな）～見えないものへの恐れ～



追儼（公事十二ヶ月絵巻）



大晦日夜の宮中行事、平安時代には恒例に。陰陽師の祭文、方相氏と童子（振子）が「見えない鬼」を追い、官人が桃弓葦矢と桃杖で払うという儀式。

冷泉為恭 画, 写・国立国会図書館デジタルコレクション

方相氏（ほうそうし）の特徴＝異形

「周礼」「令集解」には

- ・熊皮を被り
- ・黒衣に朱の裳
- ・黄金4つ目
- ・矛（ほこ）と盾

※鬼を追う側→平安後期には追われる鬼役に



節分の豆まきや厄払い

●臥雲日件録（1477）

明日立春。故及昏景家毎室散熬豆。因唱鬼外福内四字。（豆をまいて、鬼は外、福は内と唱える）

●塵塚談（江戸時代）

厄はらいといふ非人、節分の夜は御厄はらいが厄払いましよと叫び、武家町家を歩く



屋根の上に
赤鬼

病気の原因
の可視化

高階隆兼〔原画〕他『春日権現験記繪』巻5,〔写〕,天明4[1784]
国立国会図書館デジタルコレクション ※原画は鎌倉時代

「為朝の武威痘鬼神を退くの図」

ためとものぶいとうきじんをしりぞく

疫病を制するという伝説の源為朝が、痘鬼神（天然痘を擬神化した悪神）を退治する場面。

芳年『新形三十六怪撰』

松木平吉, 明治35.

国立国会図書館デジタルコレクション



昔の人は、病気や災厄の原因のひとつを、目に見えない鬼（疫神・疫病神・疫鬼）だと考えたようです。医療や科学が発達した現代人でも感染症の対策に苦労しているのですから、当時の人々の不安や恐怖はどれほどだったのでしょうか。その後、「見えない病気の原因」が、鬼や人（神）の姿で描かれるようになります。

可視化の過程で、鬼のイメージが作られてきたのでしょう。見えないものをわかりやすく可視化して退治することは、レッテル貼り、偏見の強化につながる可能性があります。安心して終わり、ではなく、「なぜそうするのか／しないのか」、探求する機会になればと思います。また、パターン化して繰り返されることで忘れられてきた物事の本質や背景、役割を担ってきたはずの人々にも、思いを馳せる姿勢を大切にしたいものです。

③宗教と鬼～鬼が果たしてきた役割～

仏教の世界の鬼

- ・ 荒ぶる神＝鬼神
- ・ 改心して仏教に帰依
→護法神（ごほうしん）
- ・ 調伏される対象
- ・ 地獄思想
- ・ 煩惱＝鬼

- ・ 閻魔大王
- ・ 夜叉（やしゃ）
- ・ 羅刹（らせつ）
- ・ 阿修羅（あしゅら）
- ・ 鬼子母神（きしもじん）
- ・ 邪鬼（じゃき）

四天王に踏まれる姿の邪鬼（じゃき）



疫鬼群「融通念仏縁起（写）」



国立国会図書館デジタルコレクション



すみおに
隅鬼：岩船寺
(京都府木津川市)

いろんな姿の
鬼がいるね



地獄の鬼「融通念仏縁起（写）」



国立国会図書館デジタルコレクション



仏教の世界には、悪鬼や鬼神から転じて、仏教の守護神（護法神）となった存在があります。地獄絵や邪鬼のようにこらしめる／こらしめられる姿で登場する鬼、仏様の力を表現する場面に登場する鬼たちは、宗教的な教えをわかりやすく示すという役割をしているのでしょう。鬼のイメージがつくられてきた過程に大きく影響したと思われます（隅鬼のように「支える鬼」もありますよ、お寺に行ったら探してみてくださいね）。

古い時代の絵巻物で表現されている鬼たちの姿は、多様な姿をしています。「人ではない」存在をどう表現しているか、鬼が一方向的に排除される対象ではないことも注目です。当時の人々の意識が垣間見えて興味深いですね。このような意識やイメージも、時代によってさまざまに変化していきます。

④その他、さまざまな鬼

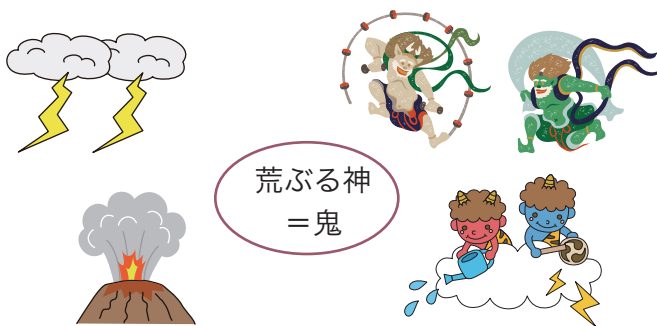
鬼瓦のように魔除けの力をもつ鬼もいます。全国には、神社に祀られる鬼もいますし、さまざまな行事に登場する鬼・鬼面の神もいます。現代でも、雷さまは鬼の姿で表現されることが多いですが、風神雷神のように自然現象を表現した鬼には、恩恵と災害をもたらす自然への恐れや、鬼と神の二面性もうかがえます。必ずしも絶対的な悪としての鬼とは限らないのですね。

一方、般若など鬼女、怨霊のような「人の化身」「怨みの象徴」の鬼は、恐ろしい姿が多いです。

鉄の金棒・ひとつ目一本足の姿、鉾山との関連から、製鉄の厳しい現場で働く労働者や、新しい技術をもたらした渡来系の人々との関連を指摘する研究者もいます。

私たちがよく知る鬼のイメージ「角に牙、虎のパンツ」が定着したのは、江戸時代以降だと言われますが、「鬼」と言ってもひと言ではくれない、さまざまな鬼がいますね。

自然への畏怖（いふ）→天災は神の怒り



角(つの)はいつから…?

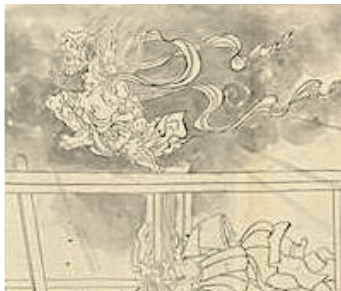


鬼瓦
徐々に立体化
角も生える



『大江山酒天童子絵巻物』二, 写, [江戸中期]
国立国会図書館デジタルコレクション

怨霊＝祟（たた）り



「北野天神縁起」

鬼の姿の雷神
→内裏の落雷は
菅原道真の祟り

たたられた側の
後ろめたさの
あらわれ?

『北野天神縁起』[1], 一山居士[写], 文政 11 [1828].
国立国会図書館デジタルコレクション

鬼と修験道（しゅげんどう）

- ・鬼の伝承と修験の霊場
- ・役小角（役行者）と前鬼・後鬼
- ・修験者と「鬼の子孫」
- ・鬼が登場する民俗芸能と修験道

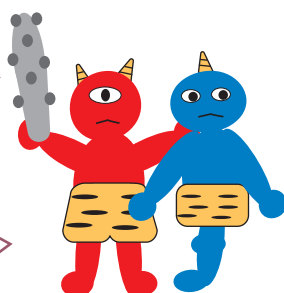


鬼伝承と鉾山 製鉄の民？

たたら製鉄との関連？

- ・ひとつ目、一本足
- ・鉄の金棒
- ・赤い顔

- ・新しい技術や文化
- ・渡来系の人々？
- ・公害を示唆？



百鬼夜行絵巻

ひゃっきやぎょう



[江戸中期][写]. 国立国会図書館デジタルコレクション

人が「鬼になる／鬼にされる」には、それなりの背景や理由があります。人を鬼にするのも、また人であると言えるでしょう。人と鬼、その境界も決して固定されたものとは言えません。

人が、鬼を恐れるのはどうしてでしょう？ 人とは異なる見た目が怖いから？ 人にはかなわない力が恐ろしいから？ 理解できない相手への不安？ それとも誰かが被害にあったのでしょうか？ それは事実なのでしょうか？ 自分の中の不安が、その対象を鬼として排除しようとしたのかもしれませんが。あるいは、自分にとって都合の悪いものを、鬼として退治したのかもしれませんが。また、特定の役割を担う人々が鬼として避けられたのかもしれませんが。鬼を恐れたり排除したりする背景は、差別の問題とよく似ていると思います。「差別はダメ」と禁止することでは解決しないでしょう。

まとめ1 非人間の鬼

- ・自然現象
- ・死やけがれ・疫病神
- ・外来神
- ・鬼神（あらぶる神）
- ・護法神
- ・宗教的役割

恐れ・畏怖（いふ）
災いと恩恵の2面性
神と鬼の両義性

まとめ2 人間系の鬼

- ・異形・異文化の人々
- ・政治的敗者や怨霊
- ・服従しない人々
- ・人の心の醜さ、怨念
- ・製鉄の民

異質なものの
不安や恐怖の象徴
征伐（せいばつ）対象
特定の職業的役割

「逸脱」した人々
→誰の基準？

まとめ3 「鬼」の特徴

ちがひ

異形
異能
異文化

力
能力
強さ

恐れ
敬い
偏見

逸脱

さて、「鬼」は何を象徴しているのでしょうか？
鬼が作られる過程を見てみると、「鬼」が人々の意識や時代背景、社会構造を反映しているように思えます。「鬼」から何が見えるでしょう？

自分がそう感じるのはなぜ？ と振り返ってみる、問題の背景を知ること、課題や問題解決のポイントが見えてくるのではないのでしょうか。思考停止・排除して解決ではなく、「なぜ？」「どうしたら？」と考える姿勢を大切にしたいですね。

鬼は作られる→人や社会を反映

見た目や異文化
人を超越・逸脱
わからないこと

恐怖、偏見
畏怖、不安
嫌悪感

レッテル貼

都合の悪い
対象

排除・
責任転嫁

思考
停止

なぜ？
どうしたら？
を考える

誤解・偏見
決めつけ

不安・不満
自己防衛

悪意・嫌悪感
固定観念

・多様性を学ぶ
・姿勢を学ぶ
・差別の構造を知る

・情報リテラシー
・学習や相談機会
・加害の背景を知る

・人権学習や啓発
・差別構造を変える
・被害者の救済

桃太郎

- 岡山の温羅（うら）伝説
- ・吉備津神社の鳴釜神事
 - ・祀られる存在
 - ・製鉄や渡来系の人々との関連？



ゆかりの地
は、全国に
あるよ！

能の鬼



般若の面

◆鬼女

- ・道成寺（どうじょうじ）
- ・黒塚・安達原
- ・鉄輪（かなわ）
- ・葵上

◆鬼神系

- ・土蜘蛛（つちぐも）
- ・小鍛冶（こかじ）
- ・鵜飼（うかい）
- ・野守

酒吞童子（しゅてんどうじ）



『酒天童子絵巻物』写，国立国会図書館デジタルコレクション

平安時代を舞台に
大江山の鬼を退治。
毒酒でだまし討ち。

宝生流謡曲本3「大江山」

ふたつとてきりぎりす
おのれはきりぎりす

おのれはきりぎりす
おのれはきりぎりす

〈討つ側の言い分〉

土も木も
我が大君の国なれば
いづくか鬼の
宿りなるらん

〈鬼の言い分〉

情けなしとよ客僧達
偽りあらじと
いひつるに
鬼神に横道なきものを

近八郎右衛門，明治 19. 国立国会図書館デジタルコレクション

さて、鬼退治で有名な『桃太郎』。鬼の側からすれば、侵略者、略奪者かもしれません。

『泣いた赤鬼』の友情に感動する人は多いのですが、青鬼の優しい行動が、鬼が乱暴者だという偏見を強くしたとも言えます。優しさや思いやりを大切にしつつ、もう一歩考えてみる事ができたら、結果は変わるかもしれません。

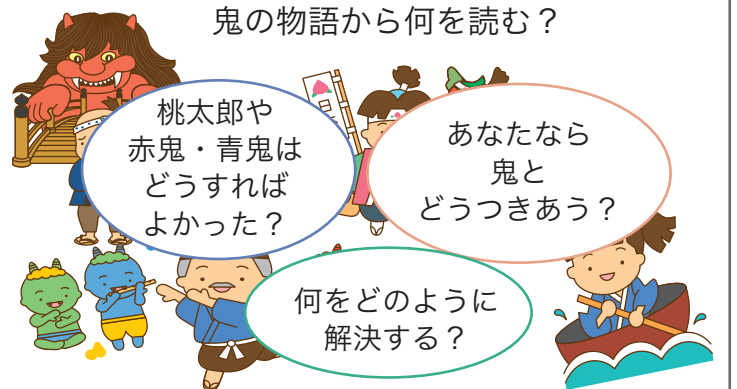
また、「かわいそうだから」「優しいから」という理由でつきあってあげること、「島を持ってきたら」（『島ひきおに』）と条件を出してごまかすことは、結果的に相手を傷つけるかもしれませんね。

大江山の酒吞童子は最期に、毒酒を飲ませた人間たちに向かって「鬼に横道なきものを（鬼は卑怯な真似はしない）」と言っています。だましたのは鬼ではなく人間だったのです。

物語や歴史は、誰の立場で書かれたものかによって変わります。時代や立場によって正義やあたり前の基準は異なるでしょう。鬼を恐れた人たちは直接被害を受けたのでしょうか。うわさを聞いた人たちは、本当かどうか、自分で確かめたのでしょうか。退治された鬼たちは言い分を聞いてもらえたのでしょうか。桃太郎や青鬼は、本当はどうすべきだったのでしょうか？

鬼の物語を、少し視点を変えて見てみると、一方的に排除されることの理不尽さ、見た目や文化が異なる人々と共に生きること、よくわからない相手とどうつきあうのか、ということを考えさせられます。

鬼の物語から何を学ぶ？



※参考：宮川久美「小学校国語・道徳教材『泣いた赤おに』の主題についての再検討」

奈良佐保短期大学研究紀要、第 22 号、2014 年

鬼と生きる人々

鬼と人の関係もいろいろ



念仏寺陀々堂の鬼はしり(奈良県五條市) 鬼が災厄を払い、福をもたらす



写真：papilio / PIXTA(ピクスタ)

日本の鬼の交流博物館

京都府福知山市
大江町佛性寺 909
Tel: 0773-56-1996

※世界鬼学会
の事務局



大江山平成の大鬼



高さ 5m 重さ 10t、
日本鬼師の会の有志が、各地の土・
焼成方法で制作した 130 のパーツを
現地で組立てたもの。(1994 完成)

◎鬼文化をテーマに据えたまちづくり：「退治された悪者の鬼」がまちのシンボルに

大江山酒吞童子伝説の舞台、京都・福知山市大江町では、さまざまな鬼イベントの開催、「世界鬼学会」設立や鬼文化研究所、鬼面柱回廊など鬼づくりの鬼瓦公園、「鬼の学校(講座)」、地元高校デザインの「鬼マスク」など鬼に関連した商品開発など、多彩な取り組みが進められています。

小さな「日本の鬼の交流博物館」には、鬼の歴史や文化がたくさん詰まっています。博物館の前の、全国の技術と職人さんの魂が込められた大きな鬼瓦は必見です。



鬼を悪者としたのは退治した側の言い分です。退治される鬼をまちのシンボルとすることは、退治した側の価値観を転換し、鬼の側から見た新しい物語＝魅力を作るとりくみであるといえるでしょう。

「鬼」を通して人がつながり、その交流がまた新しい物・縁・文化を生んでいく循環、鬼を愛する人々が、世代や地域を越えて集う場づくりから、学ぶことは多いと思います。

●世界鬼学会

どなたでも参加できます。

■年会費 1000 円

■会報が年 1 回届きます

e-mail: onihaku@city.fukuchiyama.lg.jp



鬼

の伝説・物語の舞台：奈良県では

地元の伝説・行事を
調べて見よう！



ぜんき・ごき
役行者と前鬼・後鬼

改心して、修験道の開祖である役行者（小角）の弟子となった夫婦の鬼「前鬼・後鬼」。後に人間になったという話も。

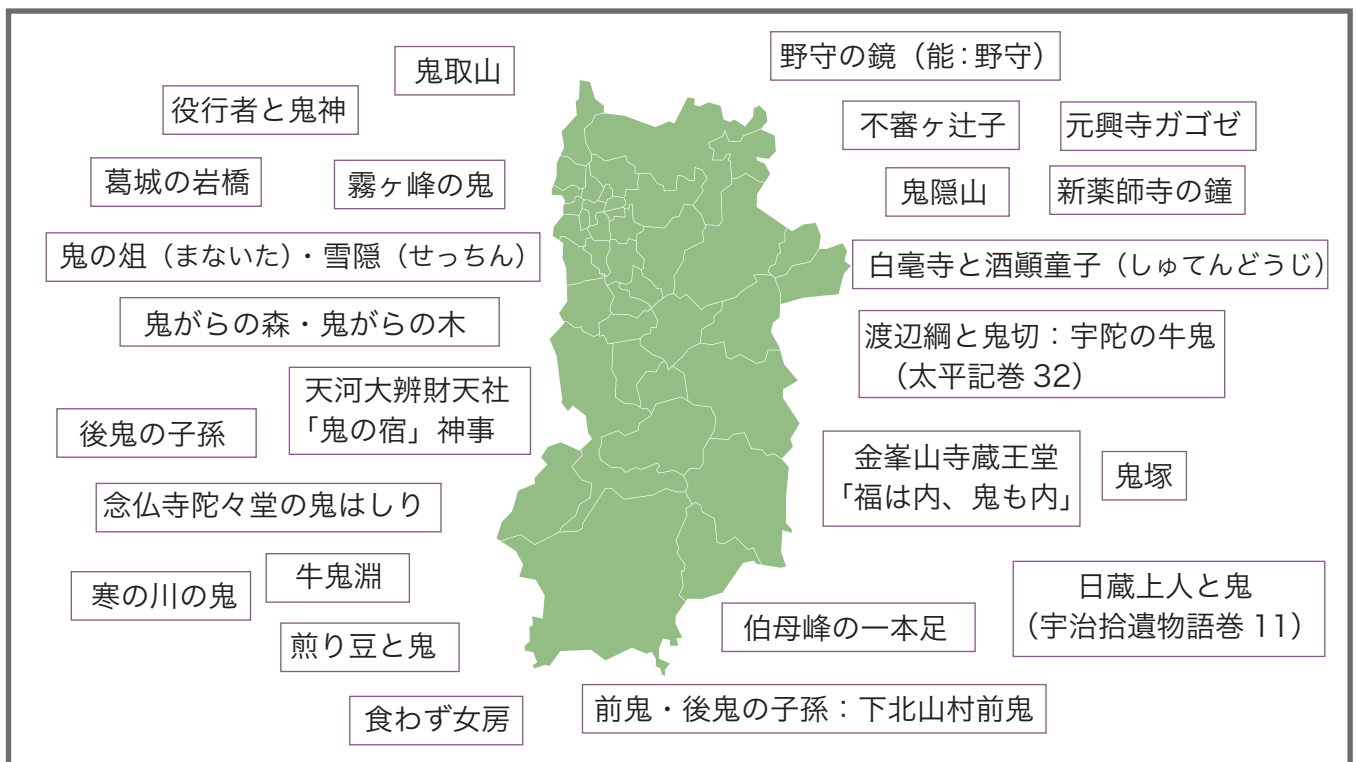


三井豊興 著『修験道』, 森江書店,
大正 7. 国立国会図書館デジタルコレクション

元興寺（ガゴゼ）



鳥山石燕 画『百鬼夜行 3 巻拾遺 3 巻』[1], 長野屋勘吉,
文化 2 [1805]. 国立国会図書館デジタルコレクション



奈良県にも全国にも、鬼の伝説や物語、鬼が登場する伝統行事や芸能がたくさんあります。伝統と共存しながら、新しい試みに挑戦している人々もいます。

鬼の子孫であることを誇りに生きている人々もいます。

一方的な悪者とは異なるさまざまな形で、鬼は人々と共に生活に溶け込んでいると思います。語り伝えて来た人々、継承してきた人々が何を守り、伝えようとしてきたのか、そこに込められた歴史や思いを大切にしたいものです。



鬼火の祭典キャンペーン in 吉野山
(吉野山観光協会)

鬼と部落問題との関連

- ・ 言い伝えや様々なメディアなどにより、人々の持つ固定観念（先入観・偏見）が強い。
- ・ 固定観念（先入観・偏見）により、排除される立場にあることが多い。
- ・ 「鬼」「被差別部落」というカテゴリだけで排除の対象になってしまう。
- ・ 科学的根拠がない。
(ケガレ観・人間の思想によって作り出された観念的なもの)

部落問題学習は高学年しかできない？

「部落の歴史を学ぶことが部落問題学習？」
「差別の現実って、差別された体験談を教材にするの？」



排除されるおかしさに気付くこと

様々な角度から物事を見ること

先入観・偏見に気付くこと

- ・ 様々な教材や出来事から、「ものの見方・考え方」を身につける。
- ・ 学んだ「ものの見方・考え方」を、出会う教材や出来事に生かす。

○「鬼と部落問題との関連」

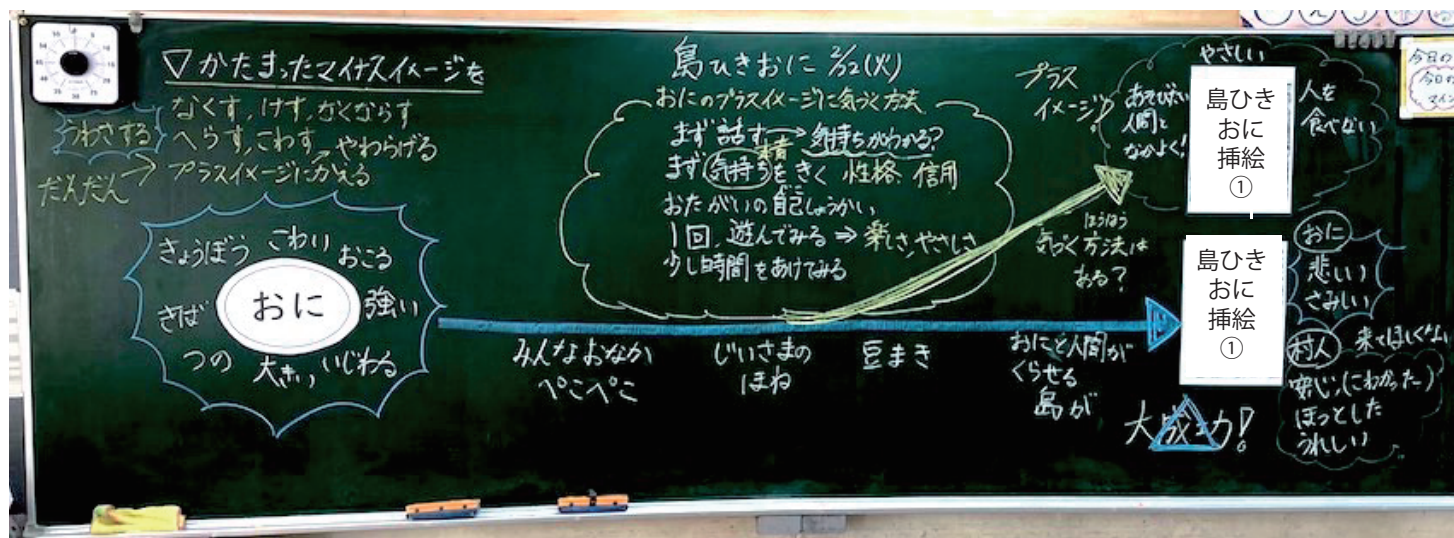
鬼は、見た目の恐ろしさなどにちがいはありますが、そもそも、見た目や自分の価値判断だけで物事を「悪いもの」と決めつけてしまうことには問題があります。そういった前提を踏まえて、鬼と部落問題の関連を考えてみようと思います。

部落差別は「ちがいのないことに対して、あえてちがいを作り出した差別」です。言うまでもなく、そのちがいを作ったのは人間です。これは、鬼にも共通するのではないのでしょうか。鬼は、人間が作り出し、勝手に排除される対象にされています。その「おかしさ」を子どもたちと一緒に考えたいところです。

○「部落問題学習は高学年しかできない？」【心の土台づくり（「ものの見方・考え方」の習得）】

「部落差別の歴史を学んでいくことが、部落問題学習だろう。」と、初めの頃は思っていました。しかし、高学年で歴史を学ぶ前に、身の回りの人権問題に対する「ものの見方・考え方」を習得していないと、学びが深まらないのではないかと考えるようになりました。人権教育を進めているとき、なにか、上滑りするような感覚を抱いたことがありました。これは「心の土台づくり」に課題があるのかもしれないと考えました。似たような言葉で、「心を耕す」と呼ぶ人もいると思います。どれだけ、高学年で価値のある教材に出会ったとしても、その価値を味わうだけの「心」が育っていないと、上滑りになってしまうのです。この「心の土台づくり」は、低学年、もっと言えば、就学前教育から大切にされるべきだと考えます。

以下に紹介する実践も、3年生を対象にした授業ですが、この学習を通して習得してほしい「ものの見方・考え方」を明確にもって取り組みました。



第3学年想定 人権学習指導案

1. 主題名 かためられたマイナスイメージを

2. 教材名 「島ひきおに」(『なかま』中学年用 奈良県人権教育研究会)

3. 部落問題学習と関連させたねらい

- ・先入観や偏見によってコミュニティから排除されていることがわかる。
- ・先入観や偏見によってコミュニティから排除しているおかしさに気付く。
- ・身近な人にあるマイナスイメージを崩していくための方略を考えようとしている。

4. 主題設定の理由

(1) ねらいについて

無意識のうちに他人へのイメージは様々な要因で刷り込まれてしまう。肯定的なプラスイメージもあるが、否定的なマイナスイメージもある。無意識のうちに先入観や偏見をもつこと自体は意図的なものではなく、だれにでも起こりうるものだが、具体的な言動として表現し他者を排除してしまう「差別行為」には問題がある。

日常生活においても、特定の人物に対するマイナスイメージが先行するあまり、その人物に近づかないようにしたり、できるだけ関わらないように避けたりすることがある。しかし、「マイナスだけ」「プラスだけ」の人間はいない。相手のマイナスもプラスも理解しようとする態度が必要ではないだろうか。特に、マイナスイメージが先行する場合、プラスの面を見ようとする考え方は、より深い他者理解やよりよい人間関係の構築において非常に重要だと考える。

(2) 児童の実態について(参考)

第3学年の児童であれば、それまで過ごしてきた時間の中で、無意識のうちにお互いのイメージをかためてしまっていることが予想される。不機嫌な態度を言動に表し、感情を周囲にぶつけてしまう児童、授業に参加しづらい児童、整理整頓がしづらい児童、考えをもっているが表現しづらく不愛想に見られてしまう児童など、様々な児童の姿が思い浮かぶのではないだろうか。このような児童は、言動によって周囲からマイナスイメージを抱かれることが少なくない。本学習を通して、これらのマイナスイメージだけではなく、プラスの面に目を向けていくために、どのような方法が考えられるのか、意見交流を通して学ばせたい。

(3) 教材について

まず、鬼は姿形が異質なもので、言い伝えなどから町や村を襲ったり人を食べたりするという先入観や偏見がある。児童は、様々なメディアによって、無意識のうちに鬼のイメージを刷り込まれている。鬼をテーマにした物語は多種多様に存在し、鬼の描かれ方もそれぞれである。「島ひきおに」の鬼は、心優しい鬼として描かれる数少ない物語であり、児童にとって、鬼の悲しさや寂しさに共感しやすい教材である。

「島ひきおに」の教材としての特長を明らかにするため、以下の表にまとめた。

	島ひき鬼	
①排除の対象	鬼	
②排除の原因	巨大・力が強い・人間と異なる形相	
③登場人物	島ひきおに	村人
④人数の構成	1	複数
⑤実質的な排除	あり	
⑥被害の自覚	自覚なし	



【鬼からの一言】

えんざい
ただし、冤罪はアカンで。
犬の骨で「人を食った」
とは、言いがかりや。
ダメなことはダメ、という
姿勢も伝えてほしいな。

注目したい特長は、「⑤実質的な排除」「⑥被害の自覚」の項目に表れている。「島ひきおに」の鬼は、先入観や偏見によって人間社会から排除されたことには気付いていない。人間の村人からすると、うまく鬼を追い出せたように描かれている。このように、排除される側が、排除される理由もわからずに排除されてしまうことは、現実の問題でもあり得ることではないだろうか。

本学習においても、排除している側の思うままに事が進み、排除されている側はその排除の意図に気付かないまま退いていく場面を取り上げたい。また、排除している側に関して「本当の鬼の姿を知らないまま排除してしまってよかったのか」という問いをもたせることで、自身と教材を重ねながら思考できるのではないかと考える。

(4) 指導について

「島ひきおに」は「なかまづくり」「先入観・偏見」「いじめの構図」など様々な視点からアプローチができる価値のある教材だと考える。しかし、様々な視点から考えられるメリットもあるが、考える視点多い故に思考が拡散してしまい、「結局何を学んだのかわからない」という振り返りにもなりかねない。そのために、ねらいを焦点化し、児童の思考の流れを細かに予想して展開を考える必要がある。

○事前アンケート

物語の概要をつかむ段階は事前アンケートで補う。「島ひきおに」の全文範読は10分程度必要である。本時では交流の時間を確保するために事前アンケートを活用した。アンケートの質問項目は2つである。質問の意図ともに以下に示す。

①「島ひきおに」の鬼はどんな鬼だったか。

→主発問につなげるために必須のとらえである。これまでの経験で培った鬼に対するイメージと「島ひきおに」のイメージの違いをとらえさせる。

②村人は鬼をどのように追い出していたのか。

→村人たちがどのように追い出していたのかを確認させることが、教材の概要を把握するために効果的だと考えた。

この事前アンケートは、宿題として扱った。アンケートはGoogle フォームを活用した。また、一人で「島ひきおに」を読解することが困難なことも予想されるため、ロイロノートを活用し、『なかま』の該当ページの画像に指導者の範読音声を添付したカードを児童に配布した。

○導入と展開後段の結び付き

導入では、まず事前アンケートの結果を提示する。提示後、「かたまったマイナスイメージを……。」に続く言葉を考えさせる。共有された意見をもとに、本時の問題意識をもたせたい。また、展開後段に同様の問いを設け、学習後の意見の広がりや深まりを感じさせたい。

○揺さぶり発問「鬼を追い出せたことは、村人にとって大成功だったのではないか。」

処世術としての「相手をあまり傷つけない断り方」という点では、村人の行動は実生活でもよくある断り方といえる。しかし、「大成功か」と問われると「お互いにとって気持ちいい判断ではないこと」に気付くことができる。児童は事前に「島ひきおに」の鬼について人物像をとらえているため、「鬼の本当の姿を知らないのに、嘘をついて断るのは良くないと思う」という思考に至ると考えられる。その思考の流れに沿って、「では、鬼の本当の姿に気付く方法はあるのかな。」と問いかけることで、マイナスイメージを崩していくための方略を考えることにつなげたい。

○展開後段で問う「かたまったマイナスイメージを……。そのために～。」

主発問に対する意見を交流したことを踏まえて、児童に再度「かたまったマイナスイメージを」に続く言葉を考えさせる。また、「そのために」の後に言葉を続けさせることで、自分がとるべき行動について具体的に言語化できるようにしている。「かたまったマイナスイメージを」に続く言葉に関しては、導入時に考えた言葉と同じ言葉を入れてもよいと声を掛ける。同じ言葉であっても、本時の交流を通して学んだ考えの深まりや広がり「そのために」に続く言葉で見てとれるからである。

○終末 自分の生活との結び付き

「今日は鬼の話を学んできたけど、鬼の話だから、人間のみんなには関係ないよね。」と問うことで、「いや、関係ある。」と自分の生活との結び付きを考え始める。その共通点を丁寧に共有することで、自分と鬼の教材との結び付きを感じにくい児童にとっても、効果的であると考え。より考えやすくするヒントとして、「例えば、鬼を人間と置き換えてみると」と考えさせる場面も予想しておく。

5. 本時の展開

時	学習活動	□主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点
導入 5分	①アンケートの結果から児童にも鬼に対する先入観や偏見があることを確認し、本時の問題意識をもつ。		・ アンケート結果から「鬼」に対する児童の先入観・偏見を可視化させる。 ・ 事前アンケートの段階では、鬼に対してマイナスイメージがあることを可視化できるように板書する。

時	学習活動	□主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点
	★アンケート結果	発問 「かたまったマイナスイメージを」の後に言葉を付け足してみよう。 ・こわす ・よくする ・プラスにかえる	・「先入観・偏見」に対する問題意識を言語化し、自覚させておくと同時に、本時の問題意識をもたせる。
展開 35分	②「島ひきおに」から、「かたまったマイナスイメージを崩していくための方略」について考える。 ・「島ひきおに」の概要をとらえ、村人が鬼を排除した経緯を確認する。 ★ワークシート ・排除されたときの鬼と村人の心情を考える。 ・先入観や偏見で鬼を排除するおかしさについて考える。	発問 突然、鬼に遊びに誘われたら、あなたならどうする。 ・他に用事があると言って断る。 ・体調が悪いと言って断る。 発問 遊びを断られた鬼、追い出した後の村人はどんな気持ちだっただろう。 <u>○鬼</u> ・悲しい。 ・ショック。 <u>○村人</u> ・ほっとしている。 ・安心している。 発問 「こわい」と決めつけをしていることを、鬼に気付かれずに村から追い出したことは、村人にとって大成功ではないのか。 <u>○大成功</u>	・この時点での鬼とは、事前アンケートで児童が回答した「マイナスイメージの鬼」という点を共通認識させ、「島ひきおに」の「鬼」と混同させないように留意する。 ・物語内の村人が取った行動の裏にある心情を考えさせる。 ・児童の意見に重ねて、村人が嘘をついて鬼を追い出したことをおさえる。 ・排除された側と排除した側の心情の違いをとらえさせる。 ・村人が、自分たちの身の安全のために排除したことをとらえさせる。 ・鬼を大きく傷つけることなく村人が目的を達成したことを取り上げることで、日常生活でも同じような状況があることを感じさせる。 ・鬼が「遊べなかった」という

		・村人はこわい鬼を追い出せてほっとしているから。 ○大成功ではない ・嘘をついて鬼を追い出しているから。 ・「島ひきおに」の鬼の本当の姿を知らないから。	悲しさを感じていることから、村人の行動が最善策ではないことに気付かせる。 ・「島ひきおに」の鬼は、マイナスイメージの鬼とは異なることを再確認し、「鬼のプラスイメージに気付く方法はなかったのか」という問題意識をもたせる。
	主発問 村人が鬼の「プラスイメージ」を気付くには、どんなことができるだろう。		
	・ マイナスイメージを崩していくための方略について考える。 ★ワークシート	・ 話しかける。 ・ 一緒に遊ぶ。 ・ 一緒にご飯を食べる。 ・ 気になることを聞いてみる。 発問 もう一度、「かたまったマイナスイメージを」の後に言葉を付け足してみよう。	・ 抽象的な意見が出ることが予想されるので、具体的に、ともに過ごすことでどんな成果が得られるのかを考えさせる。 (例えば、一緒にご飯を食べることを通して、今までのイメージが変わることがあるなど) ・ 導入時の自分の考えと比較できるようにさせる。 ・ 導入時と同じ言葉を付け加えても良いと声を掛ける。
終 末 5 分		発問 今日は鬼の話を学んできたけど、鬼の話だから人間のみんなには関係ないよね。 ・ 鬼も人間も同じ生き物だから、関係ある。 ・ 身近な人にもマイナスイメージをもっていることもある。	・ 本時の学習を振り返り、自分の生活との結び付きを再認識させる。 ・ 人間は鬼とは異なるカテゴリではあるが、学習の中で共通点を見出すことで、日常生活と結び付けて考えるヒントにさせる。 ・ 自分の生活と結び付けにくい児童には、「鬼と人間を置き換えるとどう感じるか」と考えさせる。

○おわりに

『「島ひきおに」を学ぶ』ではなく、『「島ひきおに」から学ぶ』という視点で学習を計画しました。教材研究は、「鬼」と「部落問題（人）」との共通点を探ることから始めました。そうすると、「先入観・偏見で排除される」という共通点が見えてきました。これは、ほかの人権課題にも共通する視点です。本実践が、新しい実践のご参考になれば幸いです。

報告：吉岡史朗（小学校教員）

●参考文献・書籍等



- ・小林章男、中村光行 「鬼・鬼瓦」 INAX BOOKLET 1982
- ・小松和彦 「鬼と日本人」 角川ソフィア文庫 2018
- ・小松 和彦 編 「怪異の民俗学4 鬼」 河出書房新社 2022
- ・斎藤英喜 「陰陽師たちの日本史」 角川新書 2023
- ・中村光行 「奈良の鬼たち」 あをによし文庫 2010
- ・馬場あき子 「鬼の研究」 ちくま文庫 1988
- ・設楽博己 「顔の考古学 異形の世界史」 吉川弘文館 2020
- ・銭谷武平 「新装版 役行者伝記集成」 東方出版 2016
- ・佐竹昭宏 「酒吞童子異聞」 岩波書店 1992
- ・高橋昌明 「酒吞童子の誕生—もうひとつの日本文化」 中公文庫 2005
- ・戸井田道三監修、小林保治編 「能楽ハンドブック改訂版」 三省堂 2000
- ・富山弘毅 「鬼瓦のルーツ 写真紀行—韓国、中国、カンボジア」 ルネッサンス・アイ 2017
- ・南清彦 「鬼の絵草子—その民俗学と経済学」 叢文社 1998
- ・八木透 「日本の鬼図鑑」 青幻舎 2021
- ・若尾五雄 「金属・鬼・人柱その他—物質と技術のフォークロア—」 堺屋図書 1985
- ・村上政市 「鬼に横道なきものを」 日本の鬼の交流博物館発行 平成9年5月
- ・世界鬼学会会報 世界鬼学会事務局編集 世界鬼学会（最新号は 第29号：2025）
- ・「春日権現験記」 春日大社国宝殿編集発行
- ・「下北山村史」 木村博一編著 下北山村 1973
- ・「天川村史」 天川村史編集委員会 天川村 1981
- ・「奈良県史 第13巻 民俗（下）」 奈良県史編集委員会編 名著出版 1988
- ・「日本書紀」 一、二、四 坂本太郎他校注 岩波文庫 1994、1994、1995
- ・「日本霊異記 上」 中田祝夫 講談社
- ・「古事類苑 天部・歳時部」 神宮司庁蔵版 吉川弘文館 1995
- ・「神仏のかたち 四天王 仏の教えと世界を護る結界の神々」 Gakken 2007
- ・「イラストでわかる日本の仏さま」 日本の仏研究会 KADOKAWA / 中経の文庫 2014
- ・「能楽ハンドブック改訂版」 戸井田道三監修 小林保治編 三省堂 2000
- ・月刊大和路ならら 2012年3月号 「鬼が来た！ 春が来た！」
- ・月間奈良 2017.2 特集：奈良の鬼
- ・奈良妖怪新聞（壱） 奈良妖怪新聞編集篇 大和政経通信社
- ・「大和の伝説（増補版）」 高田十郎 他編 大和史蹟研究会 1959
- ・「新版 日本の民話75 奈良の民話」 松本俊吉編 未来社 2017
- ・小林健彦．古代日本語に記録された災害情報としての疫病：「日本書紀」、「続日本紀」に見る用語運用と災害対処の文化論．新潟産業大学経済学部紀要 (42), 33-68, 2013-06
- ・鈴木英鷹．『続日本後紀（しょくにほんこうき）』にみる平安時代初期の医療福祉（仁明（にんみょう）天皇時代）．人間科学部研究年報 (13), 42-58, 2011
- ・山本聡美．疫病と美術：日本中世絵画に描かれた疫鬼．早稲田大学大学院文学研究科紀要 66 944-934, 2021-03-15

●お勧め本

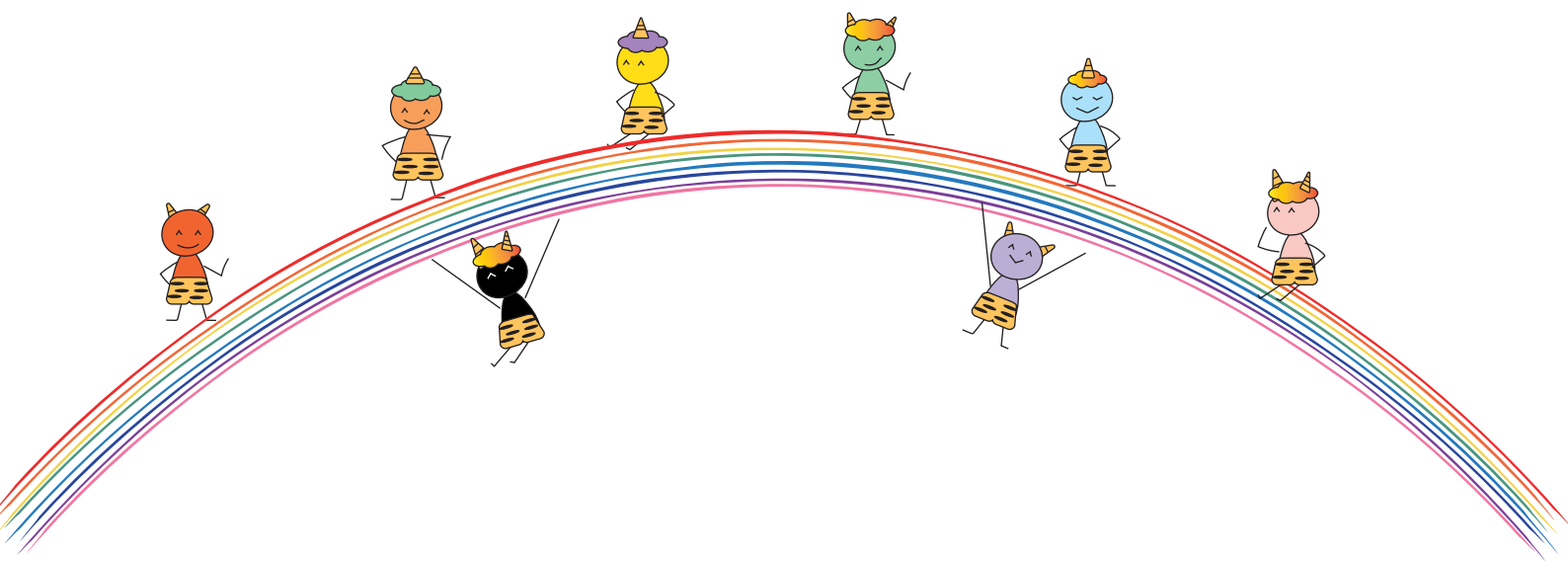
●絵本

- ・ いいからいいから 長谷川義史 作、絵本館
- ・ 鬼が出た 大西廣 文、梶山俊夫 絵、福音館書店
- ・ おにぎりがしま やぎたみこ 作、ブロンズ新社
- ・ おにさんばなし - こわごわドキドキ30話 大泉書店編集部 編、大泉書店
- ・ オニシラズ 平井美里 文、さいとうかおり 絵、文芸社
- ・ おにたのぼうし あまんきみこ 文、岩崎ちひろ 絵、ポプラ社
- ・ 鬼の首引き 岩城範枝 文、井上洋介 絵、福音館書店
- ・ おにのつたべちゃうの? なかたにゆか 作・絵、共同出版
- ・ おにはうち! 中川ひろたか 文、村上康成 絵、童心社
- ・ おにはうち ふくはそと 西本鶏介 文、村上豊 絵、ひさかたチャイルド
- ・ おへそかえして! 塩田守男 作・絵、ひかりのくに
- ・ きょだいなガチャガチャ 大橋慶子 作・絵、教育画劇
- ・ きんたろうちゃん 斉藤洋 作、森田みちよ 絵、講談社
- ・ 5たろうとおにがしま さわだひさな 作、神宮館
- ・ ゴロゴロドーンかみなりさまおっこちた 正岡慧子 作、ひだきょうこ 絵、ひかりのくに
- ・ 島ひきおに 山下明生 文、梶山俊夫 絵、偕成社
- ・ 島ひきおにとケンムン 山下明夫 文、梶山俊夫 絵、偕成社
- ・ すみ鬼にげた 岩城範枝 作、松村公嗣 絵、福音館書店
- ・ ゼラルダと人喰い鬼 トミー・ウンゲラー 作・絵、田村隆一・麻生九美 訳、評論社
- ・ せつぶんワイワイまめまきの日! ますだ ゆうこ 作、たちもとみちこ 絵、文溪堂
- ・ 空からのぞいた桃太郎 影山徹 作、岩崎書店
- ・ だごだごころころ 梶山俊夫 絵、石黒なみ子・梶山俊夫 再話、福音館書店
- ・ ちびっこちびおに あまんきみこ 文、わかやまけん 絵、偕成社
- ・ つのはなんにもならないか おにのこあかたろうのほん きたやまようこ 作・絵、偕成社
- ・ へえーすごいんだね おにのこあかたろうのほん きたやまようこ 作・絵、偕成社
- ・ つのはなんにもならないか きたやまようこ 作・絵、偕成社
- ・ ふくはうちおにもうち 内田麟太郎 作、山本孝 絵、岩崎書店
- ・ まゆとおにーやまんばのむすめ まゆのおはなし 富安陽子 作、降矢なな 絵、福音館書店
- ・ ももからうまれた おにたろう リリー(見取り図) 作、サンマーク出版
- ・ ももたろう 松井直 文、赤羽末吉 画、福音館書店

●その他

- ・ にっぽんオニ図鑑 山崎敬子 文、スズキテツコ 絵、じゃこめいてい出版
- ・ 鬼の橋 伊藤遊 著、太田大八 画、福音館創作童話シリーズ、福音館書店
- ・ にじとそらのつくりかた かとうじゅんこ 著、広瀬弦 イラスト、理論社
- ・ なきむしおにごっこ おのりえん 作、降矢奈々 絵、ポプラ社
- ・ 桃太郎は盗人なのか? — 「桃太郎」から考える鬼の正体 倉持よつば 著、新日本出版社
- ・ 千年鬼 西條奈加 著、徳間文庫





制作：奈良・天邪鬼の会（代表：中田）

<https://naraamanojaku.wixsite.com/amanojaku>

e-mail nakatah@kih.biglobe.ne.jp

構成・デザイン：タロウ

発行：2025年9月＊ 無料